とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.9.24
クラス（年齢）	幼児クラス（3，4，5歳児）
年間テーマ	自然

1．活動テーマ

≪テーマ≫

みんなのもりをなおそう！～森を見にいこう編～

≪テーマの設定理由≫

暑い夏が過ぎ、戸外での活動を安心して楽しめる季節となったため、久しぶりに「みんなのもり」の様子を見に行くことにした。森の中を歩きながら、季節の移り変わりや自然の変化に目を向ける中で、子どもたちは「みんなのもり」の看板が朽ち果てていることや、一部の木々が倒れていることに気づいた。いつも親しんでいる森も、時間の経過や自然環境の変化によって姿を変えることを知り、自然への関心を深めるきっかけとした。

2．活動スケジュール

主活動の前に

3．探求活動の実践

≪活動の内容≫（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

記録用タブレット、メモ帳、ペン

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り≫

久しぶりに森を訪れた子どもたちは、周囲の様子を見ながら散策を楽しんだ。その中で、「みんなのもり」と書かれた看板が傷み、朽ち果てている様子や、倒れている木々を発見した。
森に入ると、「みんなのもり」と書かれた看板が朽ち果てていることに気づいた子どもたち。

子ども：「あれ？ みんなのもりの看板、壊れてるよ！」
子ども：「前はちゃんと立っていたのにね。」
子ども：「もう字が見えなくなっちゃうね。」
保育者：「本当だね。前に来たときと、どこが変わっているかな？みんなのもりが、もっと楽しく過ごせる場所になるためには、どうしたらいいかな？」
子ども：「看板を直したらいいんじゃない？」
子ども：「新しい看板を作りたい！」
子ども：「みんながわかるように、きれいにしたいね。」

子どもたちの言葉からは、森を大切に思う気持ちや、自分たちの手でよりよい場所にしていこうとする意欲が感じられた。



4．振り返り

≪振り返りにより得た保育者の気づき≫

久しぶりに森を訪れたことで、子どもたちは自然の変化だけでなく、森に設置されている看板や木々の状態にも目を向けていた。保育者にとっても、日頃親しんでいる森の環境を改めて見直す機会となった。
看板の劣化や倒木は、雨風や日差しなど、自然の影響を受けながら環境が変化していくことを考えるきっかけとなった。また、子どもたちが安心して自然と触れ合えるよう、森の安全点検や環境整備を継続していく必要性を再認識した。
今後は、森の安全を確認しながら、子どもたちと一緒に環境を整えていく活動につなげていきたい。傷んだ看板については、子どもたちのアイデアを取り入れながら修繕や作り直しを検討し、「みんなのもり」をより親しみのある場所にしていく。
また、倒れた木々や落ち葉、木の実など、森にある自然物にも目を向け、自然の変化や不思議さを感じられる機会を大切にしたい。子どもたちが自ら発見し、考え、友だちや保育者と話し合いながら、自然との関わりをさらに深めていけるよう取り組んでいく。